



Troubleshooting Trace Setting の設定

この章では、Cisco CallManager Serviceability の Troubleshooting Trace Setting Web ページを使用する方法を説明します。

すべての Cisco CallManager ノードで利用可能な Troubleshooting Trace Setting Web ページは、Cisco CallManager のインストール時にインストールされます。

Troubleshooting Trace Setting ページにアクセスするには、**Trace > Troubleshooting Trace Setting** の順に移動します。

次のトピックでは、Troubleshooting Trace Setting の設定について説明します。

- [トラブルシューティング トレースの設定 \(P.9-2\)](#)
- [トラブルシューティング トレースのリセット \(P.9-4\)](#)

トラブルシューティング トレースの設定

トラブルシューティング トレースの設定値を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration から、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Trace > Troubleshooting Trace Settings** の順に選択します。

ステップ 3 トラブルシューティング トレースを設定する各 Cisco CallManager ノードのチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 Services リストで、トラブルシューティング トレースを設定するサービスのチェックボックスをオンにします。



(注) 特定のノードのすべてのサービスをチェックする場合は、そのノードの下にある **Check all Services for a Node** チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 トラブルシューティング トレースを設定するすべてのサービスを選択したら、**Apply Troubleshooting Traces** をクリックします。



(注) 長期間にわたってトラブルシューティング トレースを使用可能にすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

ページが更新されます。

関連項目

- [トラブルシューティング トレースのリセット \(P.9-4\)](#)
- [トレースの設定 \(P.5-1\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』の「トレース」

トラブルシューティング トレースのリセット

トラブルシューティング トレースをリセットする手順は、次のとおりです。

始める前に

次の手順を実行する前に、トラブルシューティング トレースを設定する必要があります。P.9-2 の「[トラブルシューティング トレースの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration から、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Trace > Troubleshooting Trace Settings** の順に選択します。

ステップ 3 **Reset Troubleshooting Traces** をクリックします。

ページが更新され、サービスの元のトレース設定値が復元されます。

関連項目

- [トラブルシューティング トレースの設定 \(P.9-2\)](#)
- [トレースの設定 \(P.5-1\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』の「トレース」